

Title	日本企業における情報化投資の価値評価
Sub Title	
Author	奥村文隆(Okumura, Fumitaka) 鈴木貞彦
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1994
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1994年度経営学 第1067号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001994-1067

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

奥村 文隆

主査 鈴木 貞彦

副査 関谷 章

國領 二郎

所属

鈴木 貞彦 研究室

日本企業における情報化投資の価値評価

日本企業において情報化投資が企業の業績に貢献しているのか、また企業はどのように情報化が本研究の目的である。

そのために、情報化投資を行っている日本の上場企業を中心と投資の効果を測ろうとしているのかを調べるのが本研究の目的である。

そのために、情報化投資を行っている日本の上場企業を中心として、インタビューを行い、情報化を進展させるための成功要因として経営者のリーダーシップと情報化投資の効果測定行動の強弱に焦点をあてて情報化を進展度との関連性を検証した。さらに企業の業績指標の一つとしての株主資本価値と情報化を進展度との関連性を検証した。

その結果としては、特に経営者のリーダーシップと情報化の進展度は相関性は高くないが、効果測定行動と情報化の進展度の間には高い相関性が見られた。さらに情報化の進展度と株主資本価値の上昇率にも比較的高い相関が見られた。

これらの結果により、企業の情報化の進展のためには情報化投資に対する効果測定行動が重要であると考えられる。しか要であると考えられる。しかし、業種により情報化の進展度合いに偏差が見られ、また業種毎に情報化投資へのリーダーシップの現れ方が異なることがあり、今後は業種別にさらに深く検討することが望まれる。

また株主資本価値の上昇率が高い場合にも、それらの要要い関与するのかという問題も残されhニして情報化の進展がどれくらい関与するのかという問題も残されている。しかし、標本企業の殆どにおいて、今後さらに発展すると思われる情報化投資に対して、それが企業の価値にどれだけ貢献するか、したかをマネジメントする行為と方法を確立することが重要であるという認識を持っているということが確認された。